



広島県広島市 宮本 三千雄さん

『地球村』との出会いをきっかけに、定年退職後は故郷の山で林業を営んでいる宮本さん。今年5月で喜寿(77歳)を迎えた、グリーンコンシューマとしての生活を語っていただきました。

【私の住む町、湯来町】

私が住んでいる湯来町は、広島市の北西に位置し、標高 500メートル以上の山間部が地域の約 95%を占めている町です。この町の山林は古くから里山として利用されました。江戸時代には広島城の築城、城下町での建築材や生活用材に、木材や薪炭などの供給地として重要視され、藩の役人が配属されるなど、かつては林業がこの町の中心的産業でした。



写真：木材を伐採しています

【退職後は農業と林業を】

『地球村』との出会いをきっかけに、永続可能な社会の実現を志すことになった私は、中学校教師を定年退職した後、生まれ育ったこの町で農業と林業に取り組んでいます。田んぼでは合鴨農法による米づくりを、畑では野菜、果樹、花木などの自然栽培やこだわりの有機栽培を行っています。今は、これから田植えの時期に入るので、今年入荷した合鴨の雛 67羽を仕込み中で、田んぼの準備に忙しくしています。



写真：自作のビニールハウス

そして山では、スギ林やヒノキ林での通常の林業の他に、松茸林再生の取り組みも行っています。この町の山林には、10年くらい前までは松茸のよく採れる雑木林があったのですが、松枯れの進行を食い止められず減収し、放置された状態です。かつての松茸林を取り戻すべく、松茸林再生への整備を行っています。スギ林やヒノキ林での林業との違いは、松

茸林での活動では国や県からの補助金が得られません。全て自己負担での活動なので細々としたものですが、湯来の松茸林の再生に思いを込めて取り組んでいます。



写真：間伐作業中です

### 【地域での取り組み】

その他にも、永続可能な社会の実現に向けて、地域での取り組みも行っています。『湯来ふるさと探検隊』というボランティア団体を設立し、湯来の自然に関心を持ってもらうためのイベントを企画・実践しています。春は自然観察、登山や植樹、山の下草刈りなどの作業を。夏は川の水質調査や魚捕り、カヌー体験などの川遊びを。秋には植林の枝打ち、間伐などの体験を。昼食は、薪を拾っての飯ごう炊飯と、湯来の食材を使った料理を楽しみます。春には山菜の天ぷらを、夏には川魚料理を、秋にはシシ鍋や鴨鍋など、季節の食材を子どもたちに楽しんでもらっています。

元々は湯来に住む子どもたちに湯来の自然や文化について知ってもらいたいと思って始めた活動でしたが、今では“地

域”の概念を、“町”から“区”や“市”に拡大しての取り組みを模索しているところです。活動のフィールドは湯来町ですが、対象者を町の外からも受け入れるようにしています。去年は、関西の旅行会社から問い合わせが入り、修学旅行で来る大阪と三重の中学生に希望を聞き、『湯来ふるさと探検隊』の企画した体験活動に参加してもらい、田植えや林業の体験をしました。

### 【これからの展望】

スギやヒノキの人工林も雑木林も、放置された山はまだ多く、山津波や河川の氾濫などの災害が心配されている状態です。地域の住民が、森林の役割と自分たちの生活を結びつけて考えられるよう、自然や環境への関心を高める為の企画や取り組みを模索しています。『地球村』と出会い、目標となった“自分で気付き、何ができるかを考え、今できることをやる”のスタイルで、地域の活性化と永続可能な社会を目指し、これからも取り組んでいきます。それが、地域に生まれ育った私の、地域へのお返しだと思って頑張っています。



写真：田んぼの上に防鳥テグスを張っています